

拒絶理由通知書

平成19年8月14日

特許出願の番号 特願2002-192650
起案日 平成19年 8月 7日
特許庁審査官 福田 知喜 3703 2100
特許出願人代理人 酒井 宏明 様
適用条文 第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出してください。

理 由

[理由1]

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

<請求項1-3、10-12>

- ・引用文献1
- ・備考

引用文献1には、走査信号線にと接続された第2のTFTのソース電極と第2のTFTのドレイン電極が近接配置されている点が記載されている（特に、段落[0032]、第2図参照）。

なお、隔離する距離を「5 μ m以上」とすることは、当業者が最適な範囲を選択した設計事項であり、液晶表示装置の基板表面が絶縁材料からなる配向膜で覆われていることは自明である。

<請求項6-8、13>

- ・引用文献1、2
- ・備考

引用文献2には、「スペーサを遮光領域に配置する」点が記載されている（特に、段落[0068] - [0070] 参照）。

引用文献等一覧

1. 特開平10-161084号公報
2. 特開平09-073088号公報

[理由2]

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

<請求項8>

請求項8に記載された「表面配線構造から最も離隔した位置」とは、どの位置を示すものであるか不明である。

よって、請求項8に係る発明は明確でない。

<拒絶の理由を発見しない請求項>

請求項(4、5、9、14)に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC G02F 1/1343、1/1368
 DB名
- ・先行技術文献 特開平05-265045号公報
 特開平05-303114号公報

この先行技術文献調査結果の記録は拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由通知書についての問い合わせがあるときは、以下までご連絡ください。

連絡先 特許審査第一部光デバイス（液晶素子） 福田知喜
 (TEL)03-3581-1101 内線3293, (FAX)03-3580-6903